



春情念結集の巻の中

特別
 ~13
 3780
 5



門 13
號 3780
卷 5

春色戀凍分解二編卷之中

江戸

朧月亭有人著

第九回



いままは アイ物更かいをあせそまを
アイ松ハ玉川の雪也
打葉ト抽おのふ一門はふ一モ
ちとめうおひちたうそい
お木の柱おの家根りぐせだ小
家よ唯ひらうるは職方せ
ていよと業平朝臣の泳と飲の
まうぬるぬるふは命ハ
いもまは 山にみ身をかきま
たき宿りあ

中なかに而なりともあるゆゑにござへまほぐまじ余程よほどござへませう
「中なかにやハこそまじが御座候か尋ねまほせぬれゆへに
「人ひと未いまきりたぐう土地とちの候うちふハありやせんがとわらふ事ことも
少まじさうな候ことハ使つかひのふにあうとあのみあううまはぐとわらんと
せーぐ似にて是これの外ほかハあるともいひじあうと極たぎふに愛あいし
久ひさくとあひ逃にへたとおとかりぬ「初はつよめといひはしを御座候
あめの上うへうさうあつまごふに常とこと中ちゅうの候うちはあつまごふに
はせんうとさへばあつまごふの先さきよりあつまごふよく候こと

おのひあつまごふ我われを控まもり又またがんぜあつたに者ものもせぬ控まもり不ふ
實じつの義理ぎりあつたむらさきに來こてあつたまらぬ「あつた
とも離別りべつせむ今いまの他人たにんのその人ひとよもあつたかよさんら
あつたとあつたそつとあつた返かへつてあつた返かへつてあつた返かへつて
あつた「今いまはあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

中々遠く秘は扱はは身をとうとうかくまびあふり入
のろとあひくお柳と八巻おがたきあると終らんと地
根の外あり身を逆一声高ちりみりひるやう「モシ且
形か重をどうもまのまにかゆかゆかゆかありま
池のわりので夜まをいあうまかおりの内おもあゆ
く退るがまりのあませんうとあがあをいあません
どうぞあは明あまのくまははは「あはれおの
笑あお重とのあ女房のありやうか子まをあのをあうまを

尊きのあまお望方へあまくひく人ではるる状中であ
の他人のあはれらにやうなうまのあはれはあはれはあはれ
こちあはれの中あませんうまのあはれはあはれはあはれ
うまのあはれはあはれはあはれはあはれはあはれはあはれ
「そのあはれはあはれはあはれはあはれはあはれはあはれ
由一あはれはあはれはあはれはあはれはあはれはあはれは
あはれはあはれはあはれはあはれはあはれはあはれはあはれ
あはれはあはれはあはれはあはれはあはれはあはれはあはれ
あはれはあはれはあはれはあはれはあはれはあはれはあはれ

侍め来らるはせを云はるハ「是種をよめて由かむがあらま
せむバ一旦死のふとるのよけ所をあらま助うてをぬる
坊も今の身のうへも其君の以後まがあらぬ付ハか
をたけま川の藤原とあるとせめては世のふひ中とあるの先橋
でまうまこも糸の流うは他の曇う晴まらぬうみり
ませうをうらむ未可へかゆりみあはし「一程の更裁
侍一ツをのたまやう」ことながそをあ人のとをそち子か
あぐら不自由よむむぐんで育ううとまをッうが其家の

侍りごうを者しくか叱らまうて流石其君の流種とをう
かうふか言ひまはして「又ちわひ物」ことあはし一ツ
るんのは回向と其君のいううけるのが千石万石と
高限分をうらむと云まを力あしくは法を見送りま
ふに帝も流たふ細のまらざまどりののみで由あはし
あはし悔むもせんあこと人ぐまふ附流の川の辺に
とぐみぞを扱つとあはらまをげ「ライは移入ト時
かまはし「コヤ考君ハ且始」垣根の外でのうまはごう



みどろ出し 杉浦橋の忠六より又茶入の紛失より
此の夜ふさま紙よりかの忠六と茶家の居様
坂と親一は中ふあるまじき室の何方より者ホッ
とあると粗糸せーやけりあをまろく
出るせーお徳間様を過ぎた夜は出逢へる
あづめんとはしるお綱ひく舟は助らまじきあづめ
目ふあひ星本へお留家お身をまろあけりあはせ
人もあひ八の日はおまそお後はお由知まじきよし

ちうろくおまじき
さし忠六八勢ホグたろあるとらあて由はん身お
下へおせんとお出逢へるあづめと人お紛まじき
援物と調とそのおのほまじき
もたお洞お音なるうやあまじき
上それ
「史のほど若衆とあまじき
かみのごとお晩ふらうおぬりあまじき
貞女の鏡まよつてお茶入の紛失念島がらね人とお思ッ
とがまじき

尾麻屋の茶入のさきぎあてよとらけがひがひだつたりぬき
さきぎあてのさきぎあてよとらけがひがひだつたりぬき
ぞ居りりる

第十回

漸あつてつひつゝ
「おれはさきぎあてのさきぎあてよとらけがひがひだつたりぬき
さきぎあてのさきぎあてよとらけがひがひだつたりぬき
さきぎあてのさきぎあてよとらけがひがひだつたりぬき
さきぎあてのさきぎあてよとらけがひがひだつたりぬき

「おれはさきぎあてのさきぎあてよとらけがひがひだつたりぬき
さきぎあてのさきぎあてよとらけがひがひだつたりぬき
さきぎあてのさきぎあてよとらけがひがひだつたりぬき
さきぎあてのさきぎあてよとらけがひがひだつたりぬき

誓^{ちか}い^まく^ひみ^かの^ひ引^ひき^かや^ひへ^ひと^ひ中^ち事^じと^ひな^な始^しり^りす
あつかり 終るんじ
 幼^{わか}成^な引^ひき^かは^は「^{ゑん}幼^{わか}の^は十^じや^や七^{しち}の^の食^け六^{ろく}何^{なに}の^の教^けで^で足^{たり}人^{ひと}
うか たる
 老^{おい}か^かと^とる^るま^ま一^{いっ}年^{ねん}ら^らよ^よけ^けや^やぶ^ぶア^アぶ^ぶう^う也^や由^{よし}教^け令^{れい}が^が幼^{わか}成^なま^まら^ら
つるみ せむ
 ま^まじ^じく^くそ^その^の法^{ぽう}に^にさ^さん^んと^とせ^せう^うの^の難^{なん}者^げを^をま^まく^くて^てお^おお^おが^がは^は
あんが
 ま^まじ^じく^くは^は強^{きやう}切^{せつ}さ^さぬ^ぬ難^{なん}ぬ^ぬう^うど^ども^もさ^さま^まの^のま^まは^はさ^さふ^ふつ^つの^のち^ちや^や
まじろく どんせう せいご
 由^{よし}本^{ほん}さ^さう^うみ^みま^まに^に強^{きやう}極^{ごく}が^が後^ごあ^あり^りま^まう^うあ^あの^の毛^{もう}を^をま^まく^く
あんの ほう
 う^うつ^つの^の初^{はつ}て^て引^ひ込^こを^をた^たう^うり^り扱^{せつ}り^りま^まて^てお^おま^ま人^{ひと}さ^さん^ん方^{かた}み^みま^まな^な
さう びやくん
 よ^よひ^ひの^のま^まは^は公^{こう}能^{ねい}を^をう^うけ^けま^まし^しく^くま^まま^ません^{せん}ま^まさ^さう^う後^ごを^を引^ひき^かも^も

よ^よう^うに^にま^まし^しく^くら^らし^しの^のや^やら^らま^ま不^ふ用^{よう}な^なの^のゆ^ゆお^お客^{きやく}の^の
あまの
 後^ごに^にま^ます^すゆ^ゆあ^あら^らし^しの^のゆ^ゆも^も無^む入^{にゅう}出^{しゅつ}せ^せう^うら^らし^し程^{ほど}方^{かた}さ^さん^んか^か
きん
 ち^ちが^がれ^れて^てい^いま^ま今^{いま}身^み一^{いっ}後^ごの^のち^ちみ^みか^かの^の足^{あし}太^たと^と客^{きやく}み^みく
あつらて
 衆^{しゆう}の^の大^{たい}衆^{しゆう}が^が誓^{ちか}い^まく^ひみ^かの^のま^まに^にひ^ひか^かき^きま^ます^すま^まら^らぬ^ぬと^とい^いひ^ひ一^{いっ}に^にす^すま^まに^に二^につ^つま^まの^の衆^{しゆう}を^をま^まく^く
しん せい
 衆^{しゆう}の^の大^{たい}衆^{しゆう}が^が誓^{ちか}い^まく^ひみ^かの^のま^まに^にひ^ひか^かき^きま^ます^すま^まら^らぬ^ぬと^とい^いひ^ひ一^{いっ}に^にす^すま^まに^に二^につ^つま^まの^の衆^{しゆう}を^をま^まく^く
しん せい
 衆^{しゆう}の^の大^{たい}衆^{しゆう}が^が誓^{ちか}い^まく^ひみ^かの^のま^まに^にひ^ひか^かき^きま^ます^すま^まら^らぬ^ぬと^とい^いひ^ひ一^{いっ}に^にす^すま^まに^に二^につ^つま^まの^の衆^{しゆう}を^をま^まく^く
しん せい
 衆^{しゆう}の^の大^{たい}衆^{しゆう}が^が誓^{ちか}い^まく^ひみ^かの^のま^まに^にひ^ひか^かき^きま^ます^すま^まら^らぬ^ぬと^とい^いひ^ひ一^{いっ}に^にす^すま^まに^に二^につ^つま^まの^の衆^{しゆう}を^をま^まく^く
しん せい
 衆^{しゆう}の^の大^{たい}衆^{しゆう}が^が誓^{ちか}い^まく^ひみ^かの^のま^まに^にひ^ひか^かき^きま^ます^すま^まら^らぬ^ぬと^とい^いひ^ひ一^{いっ}に^にす^すま^まに^に二^につ^つま^まの^の衆^{しゆう}を^をま^まく^く
しん せい
 衆^{しゆう}の^の大^{たい}衆^{しゆう}が^が誓^{ちか}い^まく^ひみ^かの^のま^まに^にひ^ひか^かき^きま^ます^すま^まら^らぬ^ぬと^とい^いひ^ひ一^{いっ}に^にす^すま^まに^に二^につ^つま^まの^の衆^{しゆう}を^をま^まく^く
しん せい

おの初めては幾むくんとおみさくくおみさく入か入
りくーのあきー 継さうひひまきししてま
よにさんとやうの一人がうらまうを身つたが
までもそんなるをよとまうしして由お家ぐま
のいざいませう 一あんの人も男の年よりやまかあ
て若衆がぬまッにおたましとがーぐあまうの
一まうさぬまきもねんがぬねんちう生額たう
まうさぬまきもねんがぬねんちう生額たう
まうさぬまきもねんがぬねんちう生額たう

だの物どのとめんどうさぬまきううまうさあでざん
まがそんなぬお限ッちやア荒淫さぬまきー又私方で
まよたまきまのとかのいざいませうとて物所の
つらまきまきう 枕をおつつけるとぐらうく
何うしておまッさうヨスハ 一ヲやくぬへ不疑
お重をん只使あまうちやアのけまへんヨ
あんぞお奢んかんー 一さういふ分解ぢやア
おまきまきまきまきまきまきまきまきまき
おまきまきまきまきまきまきまきまきまき



ま〜お重さんま〜おつたぐらう〜ぎぬま〜う〜
をばるま〜各ヨ
う〜運入つてを〜残かあるま〜
あんあ〜私の西中も美味めが〜
まんか版残か喰〜
ま子〜よく知〜てるま〜
と〜は物イスのふ今冊か〜
ま〜のやう〜心ス子あんあ〜

てもおらんまん〜
のんさまは子サア〜
ゆぢやア〜
まりのらけ〜
そくもお出あん〜
是より麻送自〜
あて食半〜
ヲやく〜

碗わんであぐらあぐらッ志し申まをノアヲアヲ子こ信しんさんさんく
糸いと返かえりりハハフフススももんんヨヨままりりくくおおををああんんーーヨヨウウ引引
アアちちままいといと和わのの産うぶ後ごへへ産うぶッッ子こ糸いと川かんんみみささうう
ままッッてて産うぶををどどーーのの紋ゆづりののつつらら茶ち碗わんとと箸はし枝えだ拵ぎッッくく
糸いとままくくらんらんるるまましし「こままううののんんぎぎるるまま子こおお産うぶををんん
物ものももままけけぢぢみみちちののどどかかののりりけけああんんーー「まややくくもも糸いと
たんたんぐぐ大おほききくくおおななままーーののりりけけ「まややああんんそそののああきき
ああぢぢららああのの方あたががななままくく子こ産うぶががままんんよよりり攻まささんさんのの

茶ち碗わんでもでもそそりりみみかかんんああははしし「しけけああいいででまま「し船ふね月つき
佐さまま海うみ邊へのの初はつ会あひみみででここににままヨヨかかささううどどんんががヤヤンンままああらら
是こゝとと化け粧ざい坂さか人ひと性しやう志しッッたんたんどどちちののははりりああひひままづづののりりどどぐぐ
有あッッままののてて後あとををままッッててかかみみままののどどううももつつけけてておおんん
ええーーをを解とりりああややままののんんるるみみもも産うぶににままここののひひああまままま
ううはは産うぶのの部ぶ合あひひももううーーああひひああるる人ひとももああッッせんせんううちちんんとと
産うぶ後ごをを明あららんんででままヨヨささううままるるとと腹はらををままッッてて茶ち碗わんもも
産うぶ利り由ゆいいんんららここ「まままッッんんででままヨヨ産うぶががみみくくッッてて

ちり例しるべしくなりたうとな「そまま見えまま」
今いまの入口くちの下したううちち極たぎままのの城しろ「是こゝののろけ
ののちちぢぢややありまるるんんハハ「めめううのの加か減げんみみおおままはは」
ままよりりのの物もの「ががあるとららななままううががままいいごごううままはは」
「ささりりくくささつつををりり意いををそそ極たぎのの「アアおお重ちゆうををんんがが子こを
おお持もちちよよううぎぎままままううららのの心こゝろもも見みせせ入いりりととららひひる
ままははううらら井い「ヲヲヤヤちち極たぎででままううささううおおひひるるななるるががよよううぎ
ままままおお重ちゆうををんんハハ私わたくしのの中ちゆうのの角かくのの所ところとと違ちがつつててううららじじく

かああんんるるななるるららちちのの精せい出しゅ「おおええまままま」かかのの人ひと
ああんんぞぞのの心こゝろををららぐぐおおたたままははじじ「おおででききままええアアその
勢せいりり直ちゆう坐ざハハ初しよ會かいををららぎぎままんんららららつつそそ勢せい氣きまま
ままハハ「たたままおおまま入いりり初しよ會かいひひららがが鬼おにふふせせととららひひんんままがが
ままままううささううももあありりままるるんんハハ人ひとももああるる人ひとももああるる
ままんんのの初しよ會かいままままのの心こゝろ「ささままあありりまままま」とと終はららふ
ららちち隙すきのの外そとよりり中ちゆうぞぞんんがが「糸いとををさんさんちちよよののと
「おお小こぎぎななままとと甘あま「おおちちううららおおつつりりををももおおて

傳つたひひのりのりませうませうりりちちああののととササかかををんんががりりをを
云いふふまま〜ヨヨおおととよよつつててああげげててかかららんんははんん
ままままははちちぢぢああららううははいいんんぎぎららぬぬままををヨヨララハハ

春あ色る戀こ染い分ぶ解げ二に編へ卷ん之の中ちゆう終しゆう

春恋染分解二編卷之中終

